

序

興福寺では現在、奈良国立文化財研究所のご協力を得て、伽藍中心部の発掘調査を継続的に行なっている。当山ではこうした一連の調査によって地下遺構の規模等を確認しながら、国の史跡指定を受け更に世界文化遺産に登録されている境内を整備し、かつ近い将来、天平時代の典雅な文化空間を再構成したい考えである。

さて、今回の調査は、平成10年に実施した中門跡ならびに回廊取付き部分の発掘につづくもので、中金堂前庭部分および東面・北面回廊などをその範囲として行なった。

今回の発掘調査でも、回廊の規模の解明のほか中金堂基壇前面部の石敷き舗装の発見、平城京の条坊にかかわる側溝の発見、あるいは、秀吉ゆかりと推定される金箔瓦の出土など、前回同様かずかずの学術的に貴重な知見を得た。

本書は、そうした調査結果を「第1期境内整備事業にともなう発掘調査概報II」として、関係機関ならびに広く興福寺に関心を寄せられる江湖の方々に報告するものである。

平成12年3月

興福寺貫首 多川俊映